第５回野洲駅南口周辺整備構想検討委員会結果報告について

１.開催日時等

平成25年４月３日（水）午後２時00分～４時00分　　於：野洲市役所本館３階第１委員会室

２.委員等

＜出席委員（１８名中１６名）＞　　50音順

１号委員（学識経験者）

及川 清昭 委員　　松岡 拓公雄 委員長

２号委員（関係機関・団体を代表する者）

太田 正己 委員　　鍛治 平太郎 委員　　鈴木 あつ子 委員

中田 幸子 副委員長　　間宮 美佐緒 委員　　森野 百代 委員

山本 真嗣 委員

３号委員（行政機関）

丸山 徳義 委員　　四塚 善弘（代理：森野　壽） 委員　　山本 利夫 委員

４号委員(公募)

兒玉 志織 委員　　前田 基良 委員　　西村 昇 委員

５号委員（市長が認める者）

平野 剛（代理：辻本　耕一郎） 委員

＜欠席委員（２名)＞

２号委員（関係機関・団体を代表する者）　　立入 誠悟 委員

５号委員（市長が認める者）　　樋口 俊助 委員

＜傍聴者＞　　＜報道機関＞

８名　　１社

３.議事等

１)健康をテーマとした駅前空間の形成について

＜検討課題＞

〇南口に必要な機能は（南口にふさわしいにぎわい健康ゾーンは）

～南口に必要な機能についてこれまでの意見を整理した上で、その機能の確認をいただくためにボリュームを示した模型を例示～

A委員

・Ａ案のように広場を囲んで施設を整備すると、方位的にせっかくの広場が日陰になってしまうことが懸念される。

B委員

・広場をいかに魅力あるものにできるのかが重要で、駅前ロータリーと広場をつなぐ間には施設がない方がよい。

C委員

・これまでの意見から盛りだくさんの幕ノ内弁当になっている。野洲市の駅前としてのどこにでもあるようなものでなく、独自性がもっと発揮される必要がある。
・週末だけがにぎわうのでなく、学生や子育て世代、お年寄りが集まることで平日のにぎわいも期待できるので、そういった方が必要とするものが大事だと考える。

D委員

・一定の集客を求める中で、駐車台数が想定されている台数では少なく感じるので、立体駐車場になると考えられるが必要台数の確保については工夫する必要がある。
・高齢者人口が増えていく中で、病院と併設し老人介護施設についても必要。

E委員

・これまでの意見を全て盛り込んだ状態であって、各々の機能について本当に必要なのかの検討をすべき。
・３つの案が例示されているがJA所有地の動向により大きく左右され、見方を変えれば、既存のJAと野洲幼稚園の敷地が減る分で、広場の面積が増えている。そうであれば、何も建てない考えで、アサヒビールから買い取った土地を広場にするだけで良いのでは。

D委員

・個人の理解としての病院については、単なる治療病院でなく老人から子どもの健康づくりを担う病院として必要だと考えている。
・JA所有地の話が出たが例示の一部にあるようなJA所有地を利用した駅前づくりの場合、絵に描いた餅にならないように、また、JAとして支店統廃合の改革をしており新体制で平成27年度からスタートさせる予定であることから、土地の方向性を決める必要があるということを前回申し上げた。JAとしても共同に投資して開発のような展開も可能だと考える。

E委員

・病院に関して、現在の民間野洲病院については耐震性の問題と施設の老朽化の課題を抱え建て替えが必要だと聞いている。利用されている患者がいることから違う土地での建て替えが必要で、介護等の関連を併設は可能だと考えるが主目的は治療となる。

◎議論内容を整理するために市長より適切な情報の伝達

＜検討に至る経緯について＞

・いろんな夢を語っていただき南口の将来像を描いていただく検討をお願いしているが、現実社会の中であって社会的・制度的な制約がある。
・当初ペデストリアンデッキ整備を含んでいた南口駅前ロータリーの改修については、市長就任後に人と車の交錯、送迎車の錯綜といった課題を解消するために見直しを実施し、機能的・安全なロータリーを目的に現計画を進めている。
・その現計画ができた後に、アサヒビールから土地の売却について打診があり、検討期間についても交渉をし、１年間の期間を得た上で、買うか買わないのかについて公開の議論を経て、20名の議会議員全員の賛成のもと、市民活動拠点の整備を目的に購入している。
・さらに、周辺には狭い駐車所や老朽化などの課題を抱えている文化ホールや野洲幼稚園があり、そういった課題も解決できるよう3.5haのゾーン設定をして検討をいただいている。

＜委員委嘱とJA所有地について＞

・JAに関しては、第１次産業、農林水産業を担う主要な団体の代表として委員委嘱しており、地権者として委員委嘱している方はいない。
・JRに関しても地権者としてではなく、交通事業者として委員委嘱している。
・JAの土地に関して、検討の対象区域に設定することについては確認しているが、独自に計画されても、一緒に共同の計画でも構わない。この件は滋賀銀行にも話している。
・市が方向性を示さないとJAとしての判断が出来ないといった、市がJAに対して宿題を負っている状態ではなく、社会的制約の中で、JAとして一緒に進めるのか、独自に進めるのか判断いただければ良い。

＜野洲幼稚園とこどもの家について＞

・野洲幼稚園に関しては、2004年に一部にだけ実施したPFI事業による増設がネックとなり全面改修できない状態。また、耐震対策ができていない野洲第一保育園は現況の敷地を拡張して建て直す予定であり、さらにもう１園必要なことから工夫すれば野洲幼稚園をなくし、こども園にすることは可能だと考えている。
・こどもの家に関しては、子ども達の居場所を確保するため、学校敷地内では対処できないことから現在のJA野洲支店を貸していただけないか打診をしたが、耐震性対策ができていないことから、お貸しいただけないとの回答であったことから、また、アサヒビールの土地売却の話が出ていなかった時点であったので、将来への可能性も考えながら市有地の一画に子ども達の安全を考え建設した。

＜新病院整備の検討について＞

・病院に関しては、民間の野洲病院が施設の耐震対策ができない、設備の老朽化の課題を抱えており、将来の行く末がないことや、野洲病院の敷地の大部分が市有地であること、昭和60～62年に貸付けた９億円の返還がされていないこと、増築の際に市が損失補償していることが明らかになった上で、市内に病院がなくなってよいのか、市が責任を持って医療サービスを担う必要があるのかを別途議論している。
・作るとは決めていないが、市民ニーズとして、野洲病院には延10万人の通院と４万人の入院患者がいる。
・市が責任を持って医療サービスを提供すべきだと示されている中で、場所は決定していないが、市民にとって便利な駅前が良いと考えている。
・この南口周辺整備構想の検討では、魅力あるまちづくりという観点で病院が出てきていると認識している。
・市民の方が病院は必要ないと言うことであれば市外の病院で足りる。
・介護サービスについては、自宅に迎えに行くものは駅前にある必要性はない。

F委員	・まちづくりとしてこの南口周辺整備構想がある中で、工場が多く立地しているわりには閑散とした駅前であり、駅を降り立ったときに野洲らしさを感じられる空間が必要。例示されているものは、どのまちにも当てはめることができるので、野洲が代表される三上山が見ることができたり、百足伝説を感じることができることで野洲らしさにつながる。
A委員	・どの配置においてもメインとなる区画内道路が踏切へつながることとなるので、動線の工夫が必要。
G委員	・駅前は人が集まるエリアでバスの路線も駅を中心に展開していることから、市民にとって便利な空間となるようにすることが重要で、病院や子育て施設が適している。特に病院は駅に近い方が良い。 ・広場については道路で分断されているよりも固まって配置する方が使い勝手が良いと考える。
B委員	・にぎわいづくりには行ってみたいと思える空間づくりが必要で、駅の目の前に建物があるよりは広場がある方が良い。一方でどのような広場を作るのかは重要なこととなる。
H委員	・当初は価値の高いところに病院はどうなのかと考えでいたが、これまでの議論の中で認識は変ってきた。 ・駅前の商業サービスに関して周りの状況がどう変るかわからないままに投資することは難しいと考える。
I委員	・配置を検討するためには、どの施設が本当に必要なのかを絞った上で進めなければいけない。
E委員	・野洲駅を降りたときに複合施設に囲まれている広場では、その良さが伝わらず活かされていない。 ・緑がある駅前は少なく印象的であるので、複合施設をまとめ広場がはっきり見えるようにすることで印象が変わると思う。
C委員	・Ｅ委員に共感する。駅を降りて建物があるような駅前はよくあると考える。 ・どちらかというとハードの話になっているので、どういう人が何をしたいのかといったことを踏まえ、ハードとソフトを併せた議論が必要。 ・駅前には子育て世帯が多いので、子育て支援に関する需要は高い。 ・商業サービスについてはどの駅前にもあるので、税金を投じて複合施設としての整備は不要では。
J委員	・病院という医療施設は健康に関連し必要だと考える。 ・ホールの老朽化に伴い市民の憩いの場としてのアリーナは必要だと考える。 ・広場については後々に利用が可能ということもあるので必要。
副委員長	・今回例示されたイメージを見て家庭の家を想像した。Ａ案は中庭、Ｂ，Ｃ案は外庭というイメージ。機能的には、家族が団らんするところ、食事するところ、休むところが配置されており、世代交流も可能な機能となっている。 ・いつの時代も大事なのは健康であり、そのテーマに沿って駅を降りた玄関口が家庭的な空間が望ましい。
E委員	・アリーナについては全天候型のスポーツ施設のイメージだが、市内には総合体育館をはじめスポーツ施設が点在している状況であり必要性に疑問がある。
A委員	・総合体育館も20年先では47年の耐用年数を迎える時期であることから、多目的なアリーナについては前回提案させていただいた。
C委員	・大きなアリーナよりはイベントが開催できる小規模なホールや可動式のミーティングルームであれば、日常的にNPO団体等からの需要はある。 ・アリーナという言葉では多目的空間としてのイメージをしにくい。

K委員

・これまでの議論によって方向付けをした健康都市とすることを思い返す必要がある。
・今回の駅前の中心となるのは、健康というテーマの中で病院やアリーナではなく、市民広場だと合意されてきたと考える。副委員長の中庭という発言が適切に表現している。
・市民広場を中庭として中心に捉え、周囲にどのような規模のものをどのように配置するのかは、この検討委員会の意見を踏まえ、次のステージで検討していただくことになる。
・他の駅前にも広場はあるがバスやタクシーの交通広場としての性格であり、今回提案しているような市民広場としての性格のものは見られず、野洲市の玄関として新しい顔になると感じている。
・健康に取り組む中で食は重要で、１次産業を担うJAについて一緒に展開できる提案ができればと思う。

・今回例示した３案とも市民広場が中庭的に配置されているが、規模や駅からの見え方が異なる。
・どの案を選択するかを決定するものではないことから、その中に配置する機能としては市民広場、多目的屋内空間、病院、一定の複合施設とする。
・次のステージにつながるように課題の整理をし委員会としてまとめる。

＜傍聴者から＞

・駅前の一等地を購入したのだから、市の財政も考慮して大胆な規制緩和のもと、30～50階建のフロントタワーを建てるなど土地活用を全面に出すべき。

＜委員会による議論を踏まえて市長からコメント＞

・病院の配置に関して、Ｂ，Ｃ案については私自身が提案させていただいた。
・病院の中身については、専門家による検討によって診療科や医師数、必要なスペースは決まっており経費や収支シュミレーションも出ているが、するのかしないのかは決まっていない。
・この駅前の当初からの目的である市民活動拠点整備の中に、病院が組み込めるのかを議論いただき病院が組み込まれている。
・病院を組み込んだときには野洲駅北口からの利用を考え、駅舎に限りなく近くしていただきたい。
・高齢者が増えていく中で循環バスのニーズは高まっており、バスを降りれば病院に直結できるように駅舎に近いＢ，Ｃ案がある。
・将来考えられる駅舎の改築時に北口から病院に直結できるような自由通路の再整備や、場合によってはJRの協力のもと線路を越えて乗用車を北口から南口に渡すようなことを考えていることから、将来の可能性を考慮した検討が必要。
・総事業費約57億円の想定がある病院について、経営的に持続可能な病院とするために、バスを降りて、駅を降りて雨に濡れないで病院に行けるような利便性の高さが必要あると考えている。
・広場そのものは重要であるが、団塊の世代を代表に高齢者が増えていく中で、これから重要なものは病院で、限りなく便利なところに病院や図書館分館のような公共スペースを整備することが課題であると考えている。
・検討委員会での議論については尊重させていただくが、広場を中心とした配置についても広い議論の中で変わる可能性がある。
・アリーナに関して、文化ホールは約1,000人の収容で集会等により一定の稼働率はあるが、造り換えるのであれば総合体育館機能も含め複合でコンパクトにして4,000人程度の収容がイメージされる。
・全国的には4,000人程度のホールを持っている中、県内ではびわ湖ホールが約1,800人の収容で、既存の文化ホールの維持管理や建設費を考えると、市民負担が高まるというよりは市民の便宜を高めるとともに、新たなにぎわいの核になるということで理解している。

２）その他

○今後のスケジュール等

６月上旬に最終の第６回検討会議を開催予定。日程等については改めて通知の予定。